

金沢学院大学の教員養成に対する理念・構想

金沢学院大学では、教員養成課程の理念として、「幅広い教養と専門知識、豊かな人間性と創造力を基盤として、自ら資質向上に努める教員の養成を目指す。ふるさとを愛し、意欲的に次世代を担う教育に取り組み、教育文化の創造・発展に貢献し、また、ボランティア活動等によって子どもへの愛情と理解を深め、対応・コミュニケーション・指導・援助能力を発揮しうる、感性豊かで実践力のある人材を育成する」ことを定め、教員に必要な資質能力を培い、信頼される実践的指導力を具備した教員養成をもって、地域中学・高校教育に貢献することを目指している。

各学科の教員養成に対する理念・構想

<文学部文学科>

文学科には学生の学びの軸となる日本語日本文学・英語英米文学・心理学・歴史学の4つの専攻分野を置くが、1年次段階においては、汎用性の高い学修が可能となるよう、カリキュラムでは学問の体系性を配慮するとともに、柔軟な教育の体系性構築に配慮する。

また、各専攻における専門教育は、学生の卒業後の幅広い進路選択の実現を図るものとしており、教員・学芸員・司書のような専門職を主体的に目指す学生の学びを保証していく。加えて、大学院人文学研究科と連動し、学部・大学院教育の連続性の中で人文学に関する個々の専門領域を生かし、これからの知識基盤社会において積極的な役割を果たすことが可能となる有為な人材を輩出する体制を構築する。

学生が自らの興味、関心を足がかりとして、学修を進める経験を通して、主体的に問題を発見し、解を見出し、解決につなげていく力を修得できるようにするとともに、1学科体制により、教員間・科目間においても連携が容易になり、学生の主体的な学修を支える体制の実現を目指す。

<経営情報学部経営情報学科>

経営情報学科では、経済の仕組み、あるいは経営を取り巻く経済動向を多面的に分析する力を身につけて、地域社会に貢献できる人材、中でも中学校や高等学校の教員として活躍できる人材を育成することを目指している。

経済の仕組みを学ぼうと、日本及び周辺諸国との歴史的背景、あるいは、国際的な政治・経済事情を把握することは、不可欠なことと考えている。そのため、政治学や歴史学、地理学など人文・社会科学系の学問を幅広く学修することが可能なカリキュラムを編成し、広い視野で経済の仕組みを学べる体制をとることとしている。このように、幅広い視点から経済の仕組みを学ぶことを通して身につく知識や能力を生かし、経済分野に強い以下のような教員を育成したいと考える。

- ①現代社会を取り巻く環境を、経済を通して分析できる教員を育成する。

②周辺諸国のみならず、グローバルな視点で社会全体を見渡すことができる教員を育成する。

③地域の経済動向をとらえ、情報収集と分析をおこない、常に専門的知識の探求ができる教員を育成する。

＜芸術学部芸術学科＞

北陸は、伝統工芸をはじめとして、美術的土壌の豊かな地域である。中学・高校教育においても、団塊の世代の教員が退職を迎えつつある状況において、この地域の美術教育の担い手を養成することは急務である。芸術学科においては、表現領域についての広汎な技術及び知識と、社会に対する深い洞察力を養成し、円滑な意思疎通や自己表現に資することのできる創造性豊かな、以下のような教員を育成する。

①現代社会における芸術の役割を理解し、芸術を通して新たな社会を築くための創造力と実行力を備えた教員を養成する。

②個人制作と協働制作の両方の過程を経験することにより、創造的思考・論理的思考の養成のみならず、社会における自己の役割を認識し、意思決定を行い行動できる教員を育成する。

③本学部で養成された創造性や観察力、課題発見・解決能力と芸術の専門的な知識・技術を活かし、多様な教育環境で活躍できる教員の養成を目指す。

＜人間健康学部スポーツ健康学科＞

スポーツ健康学科は、その教育目標・人材像を「体力等の向上を図る地域のスポーツ愛好者から競技力の向上を図るアスリートにいたるまでの最先端のトレーニング論と、現代社会に求められる健康づくりや身体づくりのための健康科学を、理論と実際の面から学び、スポーツ及び健康にかかわって深く貢献できる次代を担う人材を育成する。」とし、また、「専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指す。」としている。

これを実現するために編成した体系的な教育課程では、中学校、高等学校・保健体育科の教員免許状取得に必要な「教科に関する科目」を適切に配置しており、「教職に関する科目」の履修とあわせて、保健体育科の教員として必要な資質能力を身に付けた人材を育成することが可能となっている。

また、学校運営上の必要能力を身につけ、高等学校指導要領に示された「学校における体育・健康に関する指導」の趣旨を活かし、生徒が「より良く生きる力」を育むよう、特別活動、総合的学習、運動部の活動などとの関連を図り、生徒の心身の健康問題に適切な対応が出来る学校の全体計画を作成し、さらに家庭や地域社会と連携を取りながら指導が進められる保健体育教員の養成を目指している。

＜人間健康学部健康栄養学科＞

健康栄養学科では、教職課程の履修を通じて、学生が教職への理解を深め、教職に就くことに対する確固たる信念を持つこと、専門的な知識と技能を自己の中で統合し、教員として必要な資質能力の全体を確実に形成することができるよう図っており、学校現場での実践力や応用力などを取り入れ、教員としての高い専門性の確保を目指している。

また、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級指導や教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質能力の修得ができるよう、教職課程の個々の科目の履修により修得する専門的な知識と技能を基に、学校教育に関する理論と実践の融合を強く意識した教員養成プログラムの実現を目指している。

この健康栄養学科における教員養成の理念と人材養成の目的を達成するために、次の具体的な資質能力を備えた栄養教諭を育成することとする。

- ①教科指導や生徒指導等に関する基礎的・基本的な資質能力の修得とともに、これらを基盤とした実践的な指導実践力を持った教員を育成する。
- ②豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法を備え、的確な意思疎通により対人関係を形成できる人格的資質を備えた教員を育成する。
- ③他の教職員と協調・協働して責任を果たし、教育活動の活性化に貢献できる基本的な資質を持った教員を育成する。
- ④児童生徒はもとより、教員相互、保護者や地域社会との円滑なコミュニケーションを図ることができる資質能力を持った教員を育成する。
- ⑤主体的・創造的に課題への探求に取り組み、解決するための力を高めるために、継続的に自己研鑽できる資質能力を備えた教員を育成する。
- ⑥常に専門性の向上を図るとともに、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身につけるための基礎的な研究能力を備えた教員を育成する。

＜金沢学院短期大学食物栄養学科＞

わが国では少子高齢化など社会環境が大きく変化し、朝食をとらないなどの子どもの食生活の乱れが指摘されるなど、食生活の多様化が進んでいる中で、食育や健康志向といった「食と栄養」に注目が集まっている。食物栄養学科では、そのような課題に適切に対処し、学校給食の管理・運営に関わりながら、子どもたちに栄養のとり方や正しい食生活のあり方についての知識を身につけさせることのできる、食に関する指導の推進に役立つ栄養教諭を育成する。